

2024年11月5日



# 『朝礼時講話～報告事項』

## (1) 講話概略【こうあるべき!と強く思う心が自分の苦の根源】

下半期に入り1ヵ月が経ちましたが、各部署・各ユニットにおける上半期目標の振り返りと下半期目標の立案をお願いしてきました。そこで、改めてですが、『光寿会が歩む「目的」』を確認しますと、

『生きる意味』を発見し合える道場にしよう

と掲げております。また、『職員の心得(理念)』は、以下の5つの事を挙げてきました。

- ① 自分がされて嫌なことはしません、させません。
- ② 誰がいてもいなくても、裏表のない言葉づかいと対応をします。
- ③ 自分が発している`音、を意識して行動します。
- ④ 考えにズレが出た時こそ、相手を`よく知ろうとする、姿勢で臨みます。
- ⑤ 「結果」よりも「経験から得た財産」に目を向け、尊べる人に成ります。

この5つの詳細内容については、今一度、お目を通し頂きたいと思いますが、この心得を通して、今一度大事にして参りたいことがあります。仕事をする中で、目標や心得に基づいて、`こうあるべき、という考えを私たちは持つものです。`光寿会職員のあるべき姿、`介護のあるべき姿、など描くことは、とても大切なことです。大切なことである一方で、この`こうあるべき、を強く持ち過ぎると、それが私たちを苦しめる根元にもなっていきます。(私自身の課題でもあります。)

`今は、この事を最優先にやるべき時なのに、あの人は今やるべきじゃない事をやっている、

こう考えていくと、自分の思い込みが先行してしまい、その人の一挙手一投足に腹が立つ、というような心理にも繋がり兼ねません。もし、今、同僚が自分の思っている行動と違う行動を取っていたとしたら、その行動のみを評価するのではなく、`なぜ、今、あの人はその仕事をしているんだろう?、と一旦、ひと呼吸置いて考えてみる。必要あれば尋ねてみる。6秒のアンガーマネジメントの捉え方もあるように、「間を置く」、待つことで相手や起こっている場面の見え方にもゆとりが生まれ、その後の言葉掛けの選びも変えられるチャンスを得るなどにもつながります。

その捉え方や関わり方は相手を尊ぶ姿勢であり、それはそのまま、自分自身を尊ぶことです。

まずは今日1日から、自他を尊ぶ姿勢、取り組んで参りましょう。

【追伸『光寿会の組織のあり方の一つとして』】

光寿会のお年寄りの一番近くにいる職員が、その時のお年寄りの最善と思う事を実践する。上司に報告してから…と機を逃す事なく、今を大切に。上司への報告は後日でも良しとする。[金銭が絡む、意見が分かれる案件、このような場合はお待ち頂き、上司に相談して進めること]

## (2) 連絡事項

【講話+② = 理事長、 ① = 生活課長】

- ① 本日よりAさんが、9時30分苑迎えにて施設入居となります。
- ② 職員に関してですが、長年光寿苑を支えてもらいましたHさんが、12月いっぱい退職の運びとなります。1年前からお話しを受けておりましたが、いよいよその時が近づいてきましたのでお知らせ致します。Hさんの穴を埋めることは極めて大変なことではありますが、次のポストになる人も探しながら、後2ヵ月あります。大事にされてきたことや取り組むべき内容をしっかりと受け継ぎながら過ごして参りましょう。